

## データ等から見た各医療圏の特徴

名古屋	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大都市2次医療圏で、人口は大阪市医療圏、札幌医療圏に次いで全国で3番目に多い。大学病院や救命救急センターなどの医療機関、医療従事者など医療資源も豊富。</li> <li>○ 他圏域や県外から流入患者が多い。</li> </ul>
海部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2040年に向け人口減少の割合が大きい。64歳以下人口で減少割合が大きく、65歳以上人口は増加するが、他圏域に比べるとあまり大きく増えない。</li> <li>○ 患者は名古屋医療圏へ多く流出しており、特に高度急性期では5割弱が流出している。一方で高度急性期を中心に県外から多く患者が流入している。</li> </ul>
尾張中部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 面積が41.9㎢で、全国で344ある2次医療圏の中で最も面積が小さい。</li> <li>○ 500床以上の病院や救命救急センター、公立病院及び精神病床は0で、人口10万人当たり医療施設従事医師数も少ない。</li> <li>○ 自圏域の医療機関へ入院している患者の割合は4割弱で、多くの患者が名古屋医療圏へ流出している。</li> </ul>
尾張東部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2025年に向け人口は増加し、2040年には減少するものの、減少割合は他圏域と比べ小さい。65歳以上人口（特に75歳以上人口）の増加率が高い。</li> <li>○ 大学病院が2つ、救命救急センターが3つあり、人口10万人当たり医療施設従事医師数も多い。</li> <li>○ 他圏域から患者の流入が多く（約5割）、名古屋医療圏との間で流出、流入ともに多くなっている。</li> </ul>
尾張西部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2040年に向け人口減少の割合が大きい。64歳以下人口で減少割合が大きく、65歳以上人口は増加するが、他圏域に比べるとあまり大きく増えない。</li> <li>○ 患者の流出は2割弱で、流出先は名古屋医療圏、尾張北部医療圏、県外が多い。一方、流入は1割強で、尾張北部医療圏、海部医療圏からの流入が多い。</li> </ul>
尾張北部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 患者の流出、流入はともに2割前後である。流出先は主に名古屋医療圏、尾張東部医療圏、尾張西部医療圏であるが、流入では県外から最も多くなっている。</li> </ul>

知多半島	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 500床以上の病院が1つもなく、民間病院の割合も低い。</li> <li>○ 3割以上の患者が流出しており、主な流出先は名古屋医療圏、西三河南部西医療圏、尾張東部医療圏である。流入は少ない。</li> </ul>
西三河部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2025年に向け人口は増加し、2040年には減少するものの、減少割合は他圏域と比べ小さい。65歳以上人口の増加率が高く、特に75歳以上人口は2040年には2013年の2倍以上となる。</li> <li>○ 患者の流出は約2割、流入は約1割である。主な流出先は尾張東部医療圏、西三河南部西医療圏、名古屋医療圏となっており、主な流入先は西三河南部東医療圏、西三河南部西医療圏、尾張東部医療圏となっている。</li> </ul>
西三河南部東	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2025年、2040年に向け65歳以上人口の増加率が高く、特に75歳以上人口が大きく増える。</li> <li>○ 民間病院の割合が高い。学校法人藤田学園が平成32年に400床規模の大学病院を開設する旨、岡崎市と協定を締結している（平成27年3月27日）。</li> <li>○ 患者の2割強が流出しており、主な流出先は西三河南部西医療圏。流入は少ない。</li> </ul>
西三河西部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2025年に向け人口は増加し、2040年には減少するものの、減少割合は他圏域と比べ小さい。65歳以上人口（特に75歳以上人口）の増加率が高い。</li> <li>○ 患者の流出は1割強で、主な流出先は尾張東部医療圏である。一方、患者の流入は約2割で、知多半島医療圏及び西三河南部東医療圏から多く流入している。</li> </ul>
東三河部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2040年に向け人口が大きく減少し、65歳以上人口も2025年には若干増加するものの2040年には減少する。75歳以上人口も2040年に向けほとんど変わらない。</li> <li>○ 500床以上の病院、救命救急センター及び精神病床がなく、民間病院の割合も低い。人口10万人当たり医療施設従事医師数も少ない。</li> <li>○ 患者の4割弱が流出しており、流出先は東三河南部医療圏である。</li> </ul>
東三河部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2040年に向け人口減少の割合が大きい。64歳以下人口で減少割合が大きく、65歳以上人口は増加するが、他圏域に比べるとあまり大きく増えない。</li> <li>○ 人口10万人当たりの療養病床数が多い。</li> <li>○ 患者の流出は少ない。流入は1割弱で、東三河北部医療圏、県外から流入がある。</li> </ul>